

2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要であるという考えのもと、環境保全の実践に結びつくものとするため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。

2.1 環境学習の取組

(1) 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。環境に関する広範囲かつ専門的な知識を習得するため、基礎課程、実践課程を開講した。

各課程全10回。受講者:85人。修了者:72人。

開講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録
9月6日(土)	低炭素社会をめざして ー私たちは、何ができるかー	埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一	96頁

閉講式基調講演

開催日	講義名	講師名	抄録
12月6日(土)	気候変動の脅威	淑徳大学 教授 横山裕道	99頁

基礎過程

開催日	講義名	講師名	抄録
10月18日(土)	地球環境問題を考える	埼玉県環境科学国際センター 自然環境担当専門員 小川和雄	100頁
10月18日(土)	埼玉の環境	埼玉県環境部環境政策課 主幹 永島裕久	101頁
10月25日(土)	大気環境 ー大気汚染と地球環境問題についてー	埼玉大学大学院 教授 坂本和彦	102頁
10月25日(土)	生活の中の化学物質:管理体系と上手な付き合い方	龍谷大学 講師 石垣智基	103頁
11月1日(土)	環境の保護と再生を考える	東京経済大学 教授 磯野弥生	104頁
11月1日(土)	水環境の現状と課題	埼玉県環境科学国際センター 水環境担当部長 鈴木 章	106頁
11月8日(土)	近年の生物相の変化の原因を探る	日本鱗翅学会 監事 巢瀬 司	107頁
11月8日(土)	足元の地域から環境再生をめざす	東京経済大学 教授 除本理史	108頁
11月15日(土)	エネルギー・食糧問題と廃棄物管理	日本工業大学 教授 佐藤茂夫	109頁
11月15日(土)	JICAの環境分野の取組み ～自然環境保全分野を中心に～	(独)国際協力機構 地球環境部 森林・自然環境保全第二課長 遠藤浩昭	110頁

実践過程(水曜日・土曜日コース)

開催日	講義名	講師名	抄録
9月10日(水)	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげるコーディネーターの役割	NPO法人エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良	111頁
9月13日(土)			


開催日	講義名	講師名	抄録
9月17日(水) 9月21日(日)	環境学習プログラムをデザインする	学びの広場 代表 小川達己	112頁
9月24日(水) 9月27日(土)	環境学習の現状と課題/環境学習の今後の取り組み	立教大学大学院 教授 阿部 治	113頁
10月 1日(水) 10月 4日(土)	地域で実践する里山保全活動	むさしの里山研究会 理事長 新井 裕	114頁
10月 1日(水) 10月 4日(土)	市民・学校・行政とのコミュニケーション	NPO法人川口市民環境会議 代表理事 浅羽理恵	115頁
10月 8日(水) 10月11日(土)	生物多様性の保全について・生物調査法の実践	埼玉県生態系保護協会 統括主任研究員 高野 徹	116頁

(2)公開講座

その時々々の環境に関する話題などを扱った環境科学トピック講座、事業所環境セミナー及び彩の国環境大学修了生フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ	参加者
① 環境科学トピック講座 話題となっている環境問題を取り上げ実施している。	2月 4日(水)	講演 「環境と交通まちづくり」	71人
② 事業所環境セミナー 事業所の環境教育担当者を対象に事業所における環境教育の推進を図るため開催している。	2月19日(木)	講演 「事業所における環境経営のノウハウ」 事例発表 「事業所における環境への取り組み」	67人
③ 彩の国環境大学修了生フォローアップ講座 地域で環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学の修了者を対象に支援を行うため開催している。	1月31日(土)	講演 「埼玉の水環境のいま」 地域活動事例発表 「広げよう環境保全活動の輪～日々の様々な取組を通して～」 「地域活動と修了生の会ごみ分科会の活動～生ごみから見える環境問題～」	45人
④ 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	4月26日(土) 5月 4日(日) 6月21日(土) 7月12日(土) 7月19日(土) 8月 2日(土) 11月14日(金) 12月13日(土) 2月21日(土) 3月29日(日)	ネイチャーゲームで遊ぼう 見てみよう生態園の自然(午前・午後) 昔のおもちやを作って遊ぼう 環境地図づくり教室 川の生物で環境調査をしよう(午前・午後) 昆虫の標本を作ろう(午前・午後) ネイチャーゲームで遊ぼう(午前・午後) 実りのリースを作ろう(午前・午後) 自然のものでおひなさまを作って楽しもう(午前・午後) 埼玉のさかなの観察と投網体験	13人 148人 38人 45人 51人 51人 91人 46人 30人 24人



講座名	開催日	テーマ	参加者
⑤ 県民実験教室 簡易な化学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。 	4月19日(土)	偏光フィルムで万華鏡を作ろう	42人
	5月3日(土)	シュポシュポ真空実験(午前・午後)	275人
	5月4日(日)	リサイクル工作「スポンジ指人形」(午前・午後)	248人
	5月5日(月)	リサイクル工作「紙コップUFO」	370人
	5月6日(火)	リサイクル工作「水中ヘリコプター」	540人
	6月15日(日)	廃油からリサイクル石けんを作ってみよう(午前・午後)	56人
	7月26日(土)	水の性質を調べてみよう(午前・午後)	42人
	8月24日(日)	大気の性質を調べてみよう	23人
	10月18日(土)	音と振動を調べてみよう	18人
	11月14日(金)	空気ってチカラ持ち(午前・午後)	274人
	11月14日(金)	磁石ブランコであそぼう(午前・午後)	156人
	11月14日(金)	草木染めをしてみよう(午前・午後)	115人
	12月20日(土)	廃油からクリスマスキャンドルを作ろう(午前・午後)	52人
	2月15日(日)	草木染めをしてみよう(午前・午後)	47人

(3) 身近な環境観察局ネットワーク

身近な環境を調査することにより、環境問題への関心を高めることを目的に、県民、環境NGOや県内の中学、高校の科学クラブなどを身近な環境観察局としたネットワーク化を図っている。

観察局数:76局(平成21年3月31日現在)

(4) 研究施設公開

夏休み、県民の日などに研究施設の一般公開を行っている。

開催日	内容	参加者	
5月5日(月)	ゴールデンウィーク	} 普段非公開の研究施設を見学するツアーを実施	97人
7月26日(土)	夏休み		42人
8月23日(土)	夏休み		24人
11月14日(火)	県民の日		61人

(5) エコ・サマースクールの実施

環境問題に対する理解を深め、環境保全活動の実践を促すため、夏休みを利用して小中学校の児童・生徒等を対象にエコ・サマースクールを開催した。

内容	開催日	テーマ	参加者
環境地図づくり教室	7月12日(土)	環境地図づくり教室	45人
生態園体験教室	7月19日(土)	川の生物で環境調査をしよう	51人
環境科学相談室	7月20日(日)	自由研究のテーマを探してみませんか	81人
県民実験教室	7月26日(土)	水の性質を調べてみよう	42人
生態園体験教室	8月2日(土)	昆虫の標本を作ろう	51人
自由研究教室	8月3日(日)	身の回りの空気の汚れを調べてみよう	32人
生態園体験教室	8月23日(土)	小枝で作ろう好きなもの	47人
県民実験教室	8月24日(日)	大気の性質を調べてみよう	23人



(6)里川再生クリニック

里川の再生には、地域のさまざまな主体の参画が必要であり、中でも河川浄化団体の役割は重要で、その河川浄化団体に対し、最新の水処理技術の情報提供や簡易な水質調査法の習得など活動の支援を行っている。

利用団体数等： 5団体 84人利用

(7)その他

ゴールデンウィーク、県民の日に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
<p>① ゴールデンウィーク特別企画</p> 	<p>5月 3日(土) 5月 6日(火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ シュボシュボ！真空実験 ・ アートバルーンに挑戦 ・ リサイクル工作「スポンジ指人形」 ・ 見てみよう生態園の自然 ・ 研究所公開 ・ リサイクル工作「紙コップUFO」 ・ リサイクル工作「水中ヘリコプター」 	<p>入館者延 4,476人</p>
<p>② 県民の日特別企画</p> 	<p>11月14日(金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイエンスショー「-196℃の世界」 ・ サイエンスショー「空気ってチカラ持ち」 ・ 研究所公開 ・ リサイクル工作「磁石ブランコであそぼう」 ・ 草木染めをしてみよう ・ ネイチャーゲームであそぼう ・ アートバルーンに挑戦 	<p>入館者延 2,899人</p>

2.2 環境フォーラム

県では、人との関わりを通して水や生き物の豊かさが育まれる川(里川)の再生に取り組んでいるところである。その里川の再生には、地域のさまざまな主体の参画が必要であり、中でも河川浄化団体の役割は重要である。そこで、環境科学国際センターでは、河川浄化団体の活動を支援するため、最新の水処理技術についての情報提供や簡易な水質調査法の習得などの支援を行うためのスペースを整備し、「里川再生クリニック」をオープンした。

この里川再生クリニックのオープンを記念して、中央環境審議会の鈴木基之会長と当センターの須藤隆一総長の「特別対談」を中心とした記念フォーラムを開催した。

開催日	開催場所	内容	参加者
11月17日(月)	環境科学国際センター	みどりと川の再生 里川再生クリニックスタート記念フォーラム	96人

(1)元荒川・最上流部における里川再生エコテクノロジー 環境科学国際センター 水環境担当 木持 謙

エコテクノロジーとは、生態系の仕組みや生物の営みを利用した自然と人との共生を理念とした水質浄化技術である。現在、元荒川最上流部ムサシミヨ生息域で取り組んでいる木炭による水路浄化試験や土壌等を活用した生活雑排水浄化試験の原理と概要を紹介した。

(2)里川再生にかける思い(河川浄化団体)

神座侃大 (清流復活・元小山川の会)

幾島淑美 (綾瀬川を愛する会)

川島秀男 (鴻巣の環境を考える会)

大石昌男 (水フォーラム、戸田の川を考える会)

「素足で川に入りたい」、「コウノトリが棲める豊かな自然を実現したい」など身近な活動における目標から、マレーシアで開催された「第3回WEPA国際フォーラム」での河川浄化活動の発表の話まで、川の再生にかける市民団体の熱い思いが語られた。



河川浄化団体の発表

(3)みどりと川の再生

埼玉県環境部長 池田達雄

「彩の国みどりの基金」を活用したみどりの保全と創出、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」の実現に向けた様々な里川再生の取組など埼玉県のみどりと川の再生施策を紹介した。

(4)特別対談「川の国 埼玉」の実現に向けて」

中央環境審議会 環境科学国際センター

会長 鈴木基之 × 総長 須藤隆一

(須藤):昭和30年代初頭が低炭素社会の目指すべき姿と考える。この時代を知っている世代が、まず子どもたちに川遊びなど自然との共生を働きかけることが重要。その中間の世代をどうするかが課題。

(鈴木):成長しなければいけないというトラウマを持っている人がいるが、成長時代の発想では立ち行かない。限られた空間の中で、どう人間活動を納めるか。埼玉方式を蓄積して、そうした中間の世代へ発信することも大切。

(須藤):地球温暖化は水環境に大きな影響を与える。温暖化対策は里川の再生を助ける。

(鈴木):二酸化炭素の排出量を2050年までに世界で半減するとしたら、日本では人口1人あたりの排出量を今の1/6にしなければならない。昭和30年代は、今の1/6のエネルギーで生活していた。エネルギーの使用量をその程度に抑え、自然とどう折り合いをつけていくのか。都心では、1/6にするのは不可能であろう。そう考えた時、埼玉が一つのモデルになるのではないかと。これからどんな埼玉像を描き、発信されてくるのか楽しみにしている。



鈴木会長と須藤総長の特別対談

2.3 地域環境セミナー

地域環境セミナーは、県内地域の環境活動を支援するため、センターの職員が地域に出向いて行うもので、地域の自治体等と共催で、もしくは協力を得て実施するものである。

第3回目今回は、市民レベルの実行委員会組織により開催された「(第8回)環境まちづくりフォーラム・埼玉～東埼玉地域温暖化対策協議会設立記念」(以下、「フォーラム」という。)に参加する形で実施した。



鈴木裕万 実行委員会委員長あいさつ



板川文夫 越谷市長あいさつ

開催日	場所	内容	参加者
3月14日(土)	越谷市中央市民会館ほか	基調講演「低炭素社会づくりと市民活動」 埼玉県環境科学国際センター総長 須藤隆一、温暖化防止分科会講演「地球温暖化ー現状と未来」 埼玉県環境科学国際センター専門員 小川和雄)、パネルディスカッション、ポスター展示(地球温暖化の埼玉県への影響ほか)	フォーラム参加者数 620人

(1)基調講演「低炭素社会づくりと市民活動」

埼玉県環境科学国際センター 総長 須藤隆一

フォーラムの開催に当たり、須藤総長が以下の内容で基調講演を行った。

現在、地球温暖化は世界規模で進行している。温暖化に起因する洪水、渇水等によって農作物の生育にも重大な影響を及ぼしかねない。地球温暖化は、人類の生存基盤を破壊し、人類を滅亡に追いやりかねない史上最大の課題であり、我々は当該危機に正面から対峙し、その解決を図らなければならない。「エコ社会」すなわち持続可能な社会の構築が不可欠であり、そのために、「学びそして伝えること」、「考えること」、「今すぐできること」を一人ひとりが実践していかなければならない。



基調講演を行う須藤隆一 総長

(2)温暖化防止分科会

埼玉県環境科学国際センターとして「温暖化防止分科会」に参加した。同分科会では、小川和雄専門員による講演や、須藤総長及び小川専門員ほか4名の有識者をパネラーに招き、「迫り来る温暖化に私達はどう対処する!?!」というテーマでパネルディスカッションを行った。



温暖化防止部会(講演を行う小川和雄 専門員)



温暖化防止部会(パネルディスカッション)

2.4 UNEPインフォメーションコーナー開設

当センターは、平成12年のオープン以来、多くの県民に環境学習の機会を提供してきたが、さらなる環境学習の充実を図るため、展示館エントランス部分にUNEP(ユネップ＝国連環境計画)※インフォメーションコーナーを開設した。UNEPは、1991年より4年に一度、世界160以上の国や地域の参加を得て、世界最大規模の「UNEP世界環境フォトコンテスト」を開催してきた。このUNEPの広報活動をサポートしているのがNPO法人地球友の会であり、今回の展示は、同会の協力を得て開設する埼玉県で初の常設展示である。

なお、当日はインフォメーションコーナーの開設を記念して、NPO法人地球友の会の宮内淳理事長による地球環境フォーラムを開催した。

開催日	開催場所	内容	参加者
10月17日(金)	環境科学国際センター	地球環境フォーラム 地球とともに生きる～世界86か国をめぐってわかったこと～ NPO法人地球友の会 理事長 宮内 淳	97人

(1) UNEPインフォメーションコーナー

このコーナーは、東京都(東京ビッグサイト)、千葉県(幕張メッセ)に続き、国内で3番目の開設である。今回のオープニングでは、UNEPとドイツ・バイエル社による「エコロジー・イン・フォーカス」写真コンテストの最優秀作が展示された。ポーランド、スロバキア、ハンガリー、チェコ共和国など東欧の若い写真家たちが撮影した地球の美しさやはかなさを表現した素晴らしい作品群である。2009年1月からは、UNEP世界環境フォトコンテスト入賞作品の展示を行った。今後も、数ヶ月に一度、写真の入れ替えを行うなど世界の環境情報を継続して発信し、地球環境問題解決の一步となることを目指している。

なお、当日は地元騎西町の騎西小と鴻荃小の5年生が来館し、セレモニー及びフォーラムに参加した。



オープニングセレモニー

(2) 地球環境フォーラム

地球とともに生きる

～世界86か国をめぐってわかったこと～

NPO法人地球友の会 理事長 宮内 淳

1970年代のTVドラマで活躍した宮内氏が、テレビ番組で南極やアフリカなど86か国の秘境をめぐり、自然との調和で平和に暮らす現地人の生活やその環境の変化など20年間にわたって見続けてきた地球環境の様子を紹介した。

様々な国の自然や環境を通して、忘れかけていた地球の本当の姿や面白さ、そこから見えてくる新しい地球人としての生き方について語った。



宮内理事長の講演

※UNEP(ユネップ＝国連環境計画)

1972年6月、ストックホルムで「かけがえのない地球(Only One Earth)」を合言葉に、国連人間環境会議が開催された。そこで採択された「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」を実施に移すための機関として、同年の国連総会決議に基づいて設立されたのがUNEP。本部は、ケニアの首都ナイロビで、開発途上国に本部を置いた最初の国連機関でもある。